

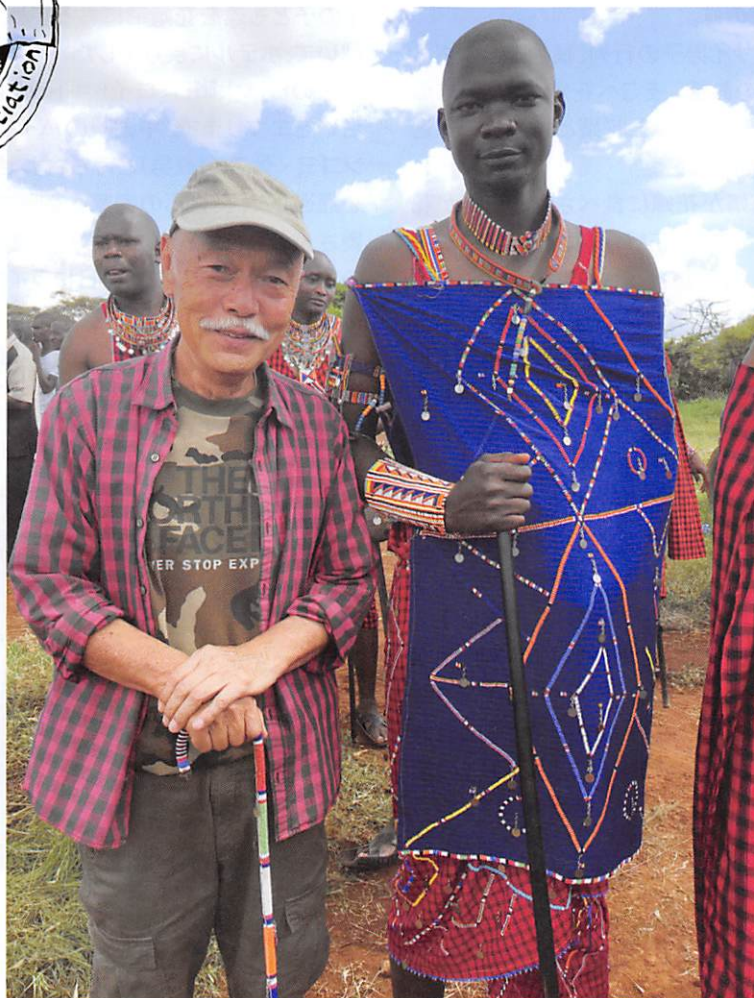
# ナイロビ通信

2019  
SPRING



アフリカと神戸俊平友の会

2019 春 通巻 NO.56



▲マサイの結婚式に出席しました。花婿と記念の一枚

## 結婚式とお葬式で2019年を迎えました

12月29日、キリマンジャロ山麓キマナ・ロイトキトゥク間のリボンド(推定28歳)の結婚式に参加しました。ナイロビをお昼に発ち、途中で「家がわからない」と花婿に電話すると「キマナのピキピキ(オートバイ

タクシー)の運転手に聞け」。運転手に聞くと、案内するから300シリング出せ、というので断りました。そこへ着飾ったマサイ女性が来たので、結婚式に向かうのだとわかり、彼女を乗せて花婿の家に行きました。

続きは2ページ目へ! →

# 神戸レポート *Kambe report*

## FROM ケニア・ナイロビ

花嫁が到着したが、すぐ始まらず、化粧にたくさん時間をかけて式がスタート。お嫁さんはナイロビの同じアパートの住民の妹。

式次第は、まずマサイ男子の行列、杖を振りかざして行進、そして牧師のお話。そこへ花嫁が登場、式の中央に造られたゲートに花嫁と花婿とが並んで通過し、正面席に座って開始です。

ケーキを切って花婿が花嫁に食べさせ、花嫁が花婿に食べさせます。その時、花嫁がいたずらでケーキを口元に運んでもなかなか食べさせないので、花婿がばくついて、会場の参加者は大笑い。

僕は、マサイの家畜の病気を診療する獣医師と自己紹介させてもらって、ケーキをいただき、食事しました。日本で買った腕時計を贈りました。キリスト教牧師の司会で始まり、マサイ風讃美歌で祝いました。その晩は、ロイトキトックのホテルに泊まりました。朝、キリマンジャロが頂上まで丸見えです。結婚式に参加した人を連れてアンボセリ国立公園へサファリすることに。マサイ大人3名、子ども10名、2歳以下2名になり、花婿側からもう一台出して、1時半に出かけました。オブザベーションヒル(丘)で小雨が降りだしましたが登って、キリマンジャロを見て、その雪解け水の湿地にゾウ・カバを見ました。オルトカイの沼の水量が増して池になり、たくさん水鳥です。フラミンゴもたくさん見ました。

サファリ終了後、アンボセリ国立公園でダニの研

究しているカリウキ獣医師とHQ(本部)で会い、ダニ熱(東海岸熱)の研究の話をして、帰宅しました。マサイの子ども達を花婿宅におろすと、そこでもケーキを戴いて、ホテルに戻りました。

次の日は大晦日。ロイトキトックからモンバサ街道沿いをエマリまで、中国製のハイウェイを運転してトンゴヨ・ケスイ(長男)と待ち合わせ。そこからシンバを通過して、奥さんの実家へ御葬式に出かけました。奥さんのお父さんが亡くなり、夜に牛を入れる囲いの中に土葬。その葬式の日にはライオンが牛を食べに来ました。

元旦は近くの丘に登るとチュル山系、その先のツアボ国立公園が見えました。ここでキャンプをして、サバンナを堪能しました。



▲大晦日は土葬でお葬式だった

## ナイロビ国立公園でライオン数調査

1月19日土曜日、市内のテロの影響を受けて、大使館より新年会中止の連絡あり。ナイロビ国立公園内外のライオン数、マサイとの共存状況を調査することになり、獣医の立場でボランティア参加。ガーミン(位置を知らせる機械)・マクロ望遠鏡、中国製GOPROを用意して、朝6時半、KWS(ケニア野生動物公社)、NNP(ナイロビ国立公園)友の会のメンバーと

正門前に集合。ナイロビ公園内を40名15台の車で8時に出発、カウントと写真・動画撮影、個体識別する。各車にはライオン個体識別できる経験者が同乗しているため、カウントが重複せず、ライオンの移動を明確にすることができる。ゲートからヒッポプールまでは、ライオンは見なかった。そのうち携帯に「#9にライオンがいる」との情報を得た。行くと、9の橋の下に

雌ライオン発見。今回の調査で次のことがわかった。

- ① 頭数の確認（園内49頭・園外不明だが推定できる：合計50頭）
- ② 建設中の中国鉄道建設の影響（鉄橋が園内の真中を横断するのでその影響）。調査中に、ライオンが捕獲したトムソンガゼルの内臓を食べただけで放棄していた。ジャッカルがすぐ横取りして去った。
- ③ 瘦せている個体を発見した。

南側境界線（バガジ川）を越境したキテンゲラ・マサイ地域で、園内のライオンが行き来していた。マサイは、家畜を食べられればライオンを毒殺する（槍・

鉄砲で殺せば責任が問われるため）。共存の手段として、マサイの家畜囲いの柱にソーラー電灯をつける方法がある。そうすれば、ライオンは侵入しない。また、瘦せたライオンについては、位置をガーミンで知らせ、KWSが動物孤児院用の肉骨を与えた。（1月19日）



## ナクル湖での水鳥調査に参加

2月2日、ナクル湖で水鳥識別と羽数の調査をすることになり、KWSと国立ナイロビ博物館野鳥部とともに、ラムサール条約事務所へ。ナイロビ博物館に11時集合、ナイロビ大学生4名を同乗させて出発。途中、ナイバシャのデラメア農場売店で休息。4時にナクルメインゲートに到着。切符事務所は水に浸かっているので、ずっと上の、以前日本工営・鴻池がつくった水質検査場がKWS切符事務所になっていた。バブーンクリフで、80年代から湖の定点観測をしているので、水が増えている写真を撮りまくる。暑くてKWSゲートから出て、市内で水を買った。この日は園内WF事務所敷地内でテントを張って寝た。

翌3日。朝5時になると、ライトをつけて参加車が集合してきた。少々寒い。チャイが用意され、朝礼のように集合して挨拶。

調査方法はこのように行われる。まず、湖岸を15に区分し、30グループが同時に識別・カウントを開始。各グループに経験者（ヒサさんと参加した時のMrsフラーは現役）が混じって識別の難しいシギチドリ・迷鳥などを識別する。カウント数は個人差があるので、それらの平均数をとる。僕はブロック4があてがわれた。同乗者は鳥好きばかり。記録係は博物館友の会事務局の女性。レンジャー2名が銃を持って同行。フラミンゴはブロック4にいなかった。4のカウントに再度バブーンクリフから眺めると、#3のフラー・グループがカウントを継続しているのが眺められた。フラーは年配にも拘わらず元気だった。銃声3発を発し（バッファローがついてきたため）、#3グループがこっちへ合流してカウント終了。100万羽いたフラミンゴは、2000羽しかカウントできなかった（ボゴリア湖に移動していた）。ナクル湖の水量増加には諸説ある。ナクル集水域の農業や人口増加による流入水量も考えられるし、日本のODAで作られたナクル取水ダムの排水が、浄化されずに湖水に流れ込む影響も、その一つと考えられる。排水設備の整備を望む。

ランチはいつもの牛肉スープ・チャパティ・ピシヨリ（米）をいただき、KWSの終了挨拶後に解散。市内ではまだ道路工事が継続していた。走行距離約250km。（2月2～3日）



以前、ナクル湖で調査に参加。永遠に教え続けた悪夢がよみがえる（ヒサ）

悪夢の思い出  
ナクル湖のフラミンゴ調査

緊急連絡!

## 空き家探し問題

2月20日のフェイスブックで、神戸俊平さんが突然空き家探してますと告知され、びっくりした方も多かったかと思います。何の説明もなく突然の空き家探しですから何事かと思われても仕方ありません。もう日本に帰っちゃうんですかという質問もいっぱいいただきました。俊平さんの短文の発信からくる誤解が招いた混乱ですので、ここで事実関係を整理して、神戸俊平さんの現在をお伝えしたいと思います。

神戸俊平さんは現在ナイロビに事務所兼住宅の拠点を置いています。年に2度イベントに合わせて日本に帰りますが、年間の活動のほとんどはケニアが舞台です。帰国時の拠点として、長く妹さんのお宅にご厄介をおかけしてきました。神戸さんの50年間にわたって書き溜めたノートやたくさんの写真、集まった民具や楽器なども置かせてもらっています。併せて俊平さんの御父上、児童文学者神戸淳吉さんの著作も妹さんのお宅で管理保管されています。

大問題は俊平さんの膨大な私物です。これを今後どうするか、そこで唐突に空き家問題が出てきたのです。空き家をどなたかが提供してくださるのか、安く見つけられれば、今妹さんにご迷惑をおかけしている私物の収容だけでなく、日本帰国時の拠点にもなるのではないかと俊平さんが考えた結果の空き家探し宣言でした。

2021年には神戸俊平さんがケニアにわたって50周年を迎えます。本来ならケニアと日本の橋渡しの功績で神戸俊平記念館でもできれば、俊平さんの私物や民具民芸品のコレクションも生きて展示できるのですが、現状ではなかなか難しそうです。もちろん今すぐ日本に帰国するつもりもありませんし、ケニアにはマサイの友人が俊平さんの終の棲家を考えてくれたりもしているみたいです。

神戸俊平さんは100歳までは元気に活動すると宣言していますが、もちろんいろいろと考えないといけません。今度の4月の帰国時に友の会と妹さん、俊平さんとでいろいろ

きちんと話し合う予定です。そのうえで、また皆様に報告させていただきます。今回は唐突な空き家探し宣言で混乱をまねいたことをお許してください。



アフリカと神戸俊平友の会  
ヒサクニヒコ

# アフリカと神戸俊平友の会 事務局からのお知らせ

▶支援しているパキスタン製の米



## ナイロビでテロ 神戸俊平は無事です

1月15日、現地時間の午後3時過ぎ、富裕層が暮らすウエストランズ地区で5つ星ホテル「デュシットD2」やオフィスなどが入る複合施設が武装集団に襲撃されました。ケニア政府は、少なくとも21人が死亡、実行犯5人を排除したことを発表。隣国ソマリアを拠点とするイスラム過激派組織アルシャバブが犯行声明を出しています。

第一報を聞いてすぐに神戸俊平さんに連絡を取り無事を確認しました。大使館情報では幸いにも日本人の犠牲者はいなかったとのこと。今は落ち着いているようですが、ナイロビテロの一週間後も下町の映画館そばで爆発事件があったようです。



▲事件を伝える現地の新聞

## スラムの子ども達へ 給食活動継続中です

お米25kg 2袋(半月分)を支援しています。月によってお米の値段は1500~1900シリングに変動します。写真のFive-starはパキスタン産です。

給食用道具・炭ですが、炭は森林伐採につながるため、ガス利用を考えています。炭は月額8000シリング(約9000円)かかります。まだガス代が同額でおさまるのか、試算できませんが、40人分の豆を煮るのにガスボンベ12kg入りか月8000シリングで持つものか？ まずはガスコンロのまわりに土を詰めてエネルギー保存コンロをつくる予定とのことです。

## 長崎大学での疫学研究 経過報告

ツェツェバエから媒介する眠り病病原体トリパノソーマの遺伝的解析はなかなか進んでおりません。2月、ナイロビのホテルにて長崎大学・KEMRI(ケニア医学研究所)共同の学会開催。本病特效薬アスコフランの基礎研究や金沢大学出身のソングック医師等大勢の研究発表がありました。

帯広畜産大学ツェツェバエ研究科と長崎大学の共同研究の話合いが進められています。さらに12月に東大新領域創成科学科による次世代シーケンス(遺伝子解析法)の講習会がナイロビ大学獣医学部で行われました。講習会のサンプルにこれまで捕獲したツェツェバエを使ってもらいましたところ、まだ不明なトリパノソーマ亜種の解析が進められそうです。

## 事務局からのお知らせ&お願い

### ◎ご支援、よろしく願いいたします

いつも神戸俊平の活動を支援いただきまして、ありがとうございます。

ご支援の金額は特に決めておりません。できる範囲での応援をお願いいたします。ご支援くださる皆様には「ナイロビ通信」(年2回発行予定)をお送りいたします。

今後ともご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。 ヒサクニヒコ・神戸俊平

### 日本事務所

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80 神奈川中小企業ビル707 PtoP合同会社内「アフリカと神戸俊平友の会」  
Tel&Fax 045-225-8403

### ケニア事務所(変更ありません)

P.O.Box 9549 00100 GPO Nairobi, Kenya  
Tel +254 722767731  
E-mail shimouma1chome@gmail.com

## アフリカと神戸俊平友の会

**振込先** 郵便振替 00190-9-665050  
(同封の振込用紙をお使いください)

会長 ヒサクニヒコ  
運営理事 神戸俊平  
理事(会計) 久田雄治  
理事(ナイロビ通信) 香月千秋  
イベント担当 荻野康子

※「2018年度会計報告」は、ナイロビ通信2019秋号に掲載いたします。



# 神戸俊平の毎日

～日記帳より～

## 11月10日 土曜日

マサイマジモト村からマサイマラゲームリザーブ経由カワイ村へ移動。マジモトからセケナニ・ゲートまで中国の道路工事が進行中。トンゴヨの息子サム働いている養蜂巣箱をその道脇で見る。ここで道路工事に雇われている、元ナイロビ宅のウオッチマン・レボソ・レボレが働いていた。

セケナニ・ゲートからトランジットでオロロロ・ゲートへ。行く途中で、ダラジャ(橋)を渡って、遠目でライオンを見る。夕方、カワイ到着。屋内の寝所・料理の準備をする

## 11月11日 日曜日

9時半、近所の新しい教会へ礼拝参加する。助手ムニエニエはクリスチャンだった。我が家から割礼式場へ20L入りジェリカン5個を車で運ばされる。その場所は南に歩いてすぐだったが途中の土地が私有化され、大きく迂回しなければならなかった。女たちがゆっくり食事の準備中で「チャイ」を飲ませてくれた。ナロックで買った家畜用塩(スワヒリ語チュンビ)をマサイにさしだと家畜の近況情報を教えてくれた。

## 11月12日 月曜日

割礼師が(近所でも行なわれて)忙しくて、火曜日に延期。近くのジャクソン(永松さんの旦那)ボマで行こうかとしたら、近くのボマでECF(東海岸熱ダニ病)の往診を頼まれた。

妊娠牛2頭ト殺、立派な健康体の牛、これをハラールのためにムサが短刀(マサイ語ジョレ)で喉笛を切った。血流がどーっと流れ出た。母体と胎児が時間差で死ぬと言うので2頭の死の痙攣がずっと続いていた。胃内寄生虫をたくさん見た。(その後このサンプルを目黒寄生虫博物館に鑑別に送ると、2か月後「吸虫」という結果が送られてきた。)解体していくと夕暮れになり、焼き肉をたっぷりいただく。解体係は助手ムニエニエ達で肉を貰いすぎ。



屠った牛の胃内寄生虫



## 11月13日 火曜日

早朝5時、助手ムニエニエ・ドライバー兼料理人ムサ3名で儀式場へ行くと、地べたで寝ているマサイもいて、そこでもノロノロと起き出していた。

明るくなって来た頃、家で寝ている長崎大学女子院生をピックアップしに行く。再度割礼式場へ着くとすでに6名が割礼を終え、最後の一名の割礼を見た。家に帰っている間に少年は全身の毛を剃られていて、ボマの外に立たされていた。亀頭のまわりの包皮が切られ、下方に切り延ばされ、包皮に窓のような穴を開け亀頭をこじり出して終了。麻酔なし。写真は撮らせてくれなかった。父親助手ムニエニエは平然としていた(トンゴヨは興奮して震えていたのに)。

助手ムニエニエの息子に奥さん経由で割礼記念に時計(1000円)首飾り(池袋フリマで買った)、マサイが好きな古着赤シャツを贈り物にした。

割礼後、チャイを待った。チャイにミルクを入れるのだが集まった人が多くてミルク・パケットを買いに行く人が帰ってくるまで待たされた。

再び20L入りジェリカン5個



「俊平さんはアフリカで毎日どんな暮らしをしているんですか？」  
一番多く寄せられる疑問にお応えすべく、  
日記の一部を公開していただきました。(原文ママ)



を車で運ばされる。家のそばの泉からとるのが、濁っていた。参加長老たちの宴会となり、今回特別に料理人として雇われた運転手ムサがアラブ風ピラウを料理して、肉をいっぱい食わされ、歯ぐきに肉が挟まって、後で歯痛になった。

約一時間かけ、帰り支度し、昼前にカワイを発つ。12時11分。オロロロ・ゲートでトランジット・パスを貰う。通常のヌー川渡り地点でワニなど写す。ダラジャ(橋)の料金検査オフィスでトランジット・パスにいちゃもんをつけられそうになったが、カワイで家畜の診療するキンバイの娘がレンジャーなので、そのまま通過できた。川沿いをゆっくりサファリする。長崎大学女子院生もいるので、キーコロック・ロッジの高級便所で用をたす。セケナニ・ゲートそばサロバロッジ近くの道端で「ピーピー」と鳥のような鳴き声が聞こえ、小さなやぶの中でチーターの母子(3頭)がいた。たっぷり観察することができた。セケナニ・ゲートを出る時、トランジット・パスの有効時間がとくに切れていたのを指摘されが、リサーチ・パミッションを無言で提出すると、無言で通過許可された。これで長崎大学院生

も行き帰り2回もマサイマラ無料でサファリができた。マジモトに夜遅くついた。そこで大量に貰った肉・レバーをトンゴヨの息子ケスイ、運転手、院生達と食べた。



### 11月14日 水曜日

トンゴヨの孫に送った折りたたみ式自転車がパンクで使っていないので、ナイロビ修理に持ってこさせたり、ケスイと相談したり、8時半帰り出発。ナロック獣医局DVOへ牛の胃内寄生虫サンプルを見せ、目黒へ送る許可を得る。

長崎大学院生はここで9時45分発ピクトリア湖行き長距離バスに乗り換えた。昼過ぎにナロックを発つ。肉食い過ぎなのか、以前からグラグラの歯が運転中に抜けた。ナイロビ郊外で中国道路工事の迂回道路のため帰り路を間違えて、公文医師の支援する障害児院そばをドンドラを通過して、カレンへはナイロビバイパス経由で向かった。そこでト

ンゴヨの息子マイソンの、南アの研修の担当教官ガラティ人類学教授に20年ぶりに再会し、マサイの戦士はなぜ右組左組に分かれてから大人に合同するのかわかった。「キリマンジャロ山麓キソコ・マサイは左右戦士が戦い過ぎて、この習慣を止めたが、左右緊張関係にあると結束が固いそうだ」と説明してくれた。ムサの運転手代8000シリングを計算して帰宅した。合計走行距離は505kmだった。夕食はエチオピア・ケツケル料理を食べた。

### 11月15日 木曜日

ナイロビ長崎大学拠点で胃内寄生虫をエタノール90%エッペンドルフ・チューブに保存作業した。夜は日本人会余興で大使特別賞をいただいた食券でイタリアンレストランへ行き、パスタを食べた。

### 11月16日 金曜日

折りたたみ式チャリのパンク修理、寄生虫サンプル整理。5時、大雨が降った。



# 神戸俊平 春の帰国スケジュール



## ■アースデイ東京2019

「アフリカと神戸俊平友の会」で参加します。  
下記期間中はブースにいますので、ぜひおい  
てください。

**日時** 2019年4月20日(土)、21日(日)  
10~17時(予定)

**場所** 代々木公園イベント広場・  
ケヤキ並木「並木38」ブース

**URL** <http://www.earthday-tokyo.org>

## ■長崎大学

**日時** 5月予定

## ■日本出発

**日時** 5月中旬予定

昨年のアースデイ。  
今年もお待ち  
しています!



## アフリカと神戸俊平友の会

### ●ケニア事務所

P.O.Box 9549 00100 GPO Nairobi, Kenya  
Tel +254 722767731  
E-mail [shimouma1chome@gmail.com](mailto:shimouma1chome@gmail.com)

### ●日本事務所

〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80  
神奈川中小企業ビル707  
P to P合同会社内(香月千秋)  
Tel & Fax 045-225-8403  
E-mail [ckatsuki\\_ptop@snow.plala.or.jp](mailto:ckatsuki_ptop@snow.plala.or.jp)

### ●イベントの問合せ先(荻野康子)

E-mail [kambe.s.tomonokai@gmail.com](mailto:kambe.s.tomonokai@gmail.com)  
携帯 070-3148-7111  
(急用でなければ、平日は18時以降にお願いします)

<http://www.s-kambevot.org>

アフリカと神戸俊平友の会

検索

